

・実践事例
・レポート
三

学校の紹介



もりおかしりつうえだ

岩手県盛岡市立上田中学校
〒020-0066
岩手県盛岡市上田二丁目1-1
TEL:019-623-4237

<http://www.city.morioka.iwate.jp/14kyoiku/sch-j/ueda/>



盛岡市中心部に位置する上田中学校は、創立以来、長きにわたり教育実習校として地域の教育に貢献してきた。各種の研究指定を含む公開研究会の開催にも積極的に取り組んでいる。生徒数458名、佐藤恭孝(さとう・やすたか)校長。

文字と図葉があやなす道徳実践を訪ねて

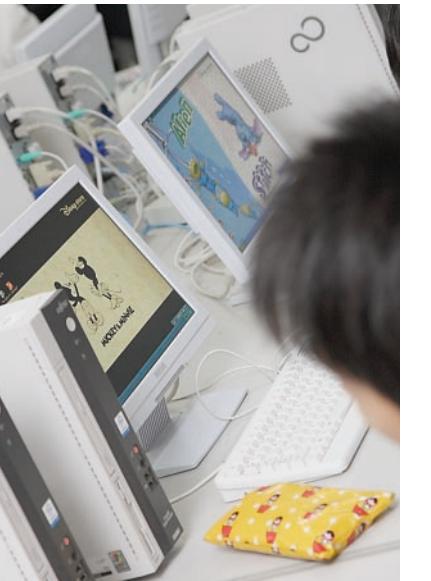
「子どもたちの『コミュニケーション能力の弱まり』が指摘されるようになつてすでに久しい。自分の気持ちをうまく表現できない』『悩みや苦しみを分かつてもらえない』そんな思いは、誰よりも子どもたち自身を苦しめている。胸の中の思いを共有し、共に悩み笑える心を育てるため、文字コミュニケーションを触媒として生かした道徳の授業を取材した。

取材・撮影:西尾琢磨

パソコン室に集い合唱で始まる「道徳」

秋の晴天に恵まれた取材当日、岩手山から吹き下ろす風が吹く中、上田中学校を訪ねた。今回取材するのは3年生の道徳の授業。『ジャストジャンプ3@フレ

習校の役割を担い、かつ、1960年代後半上田中は1951年の開校以来、教育実習校の役割を担い、かつ、1960年代後半



生徒たちのパソコンには、それぞれ自由な壁紙が設定され、デスクトップの表示設定も思い思いに変更されている。自分の机でありノートである——そんな思いが感じられた。



授業冒頭、声を合わせ歌った合唱。その後に坂本先生が発したのは「合唱について誰かに言いたいことはありますか」という問い合わせでアンケートに答えていく生徒たちの様子がうかがえた。

あるクラスメイトの思い

ソプラノ、アルト、テノール、バスと素早くパートごとに整列した生徒たちは、指揮者の合図で見事な歌声を披露してくれた。

「今の合唱」とは、まさにたった今、授業の冒頭に歌われた合唱のこと。「今朝の合唱はどうでしたか?」
● 今朝の合唱はどうでしたか?
● 合唱について誰かに言いたいことはありますか?
● 今朝の合唱はどうでしたか?
● 今朝の合唱はどうでしたか?
● 今朝の合唱はどうでしたか?
● 今朝の合唱はどうでしたか?
● 今朝の合唱はどうでしたか?
● 今朝の合唱はどうでしたか?
● 今朝の合唱はどうでしたか?

「誰かに言いたいこと」そんな坂本先生の問いの意味が明らかになったのは、クラスメイトの思いが記された文章がモニターに表示された瞬間だ。思うように進まない練習、ひとつになれないみんなの気持ちに対する切なる声が、生徒たちの胸を打つ。

静まりかえる教室。手は挙がらない。それを予期していたのか、坂本先生は次のステップへと進んでいく。

「あの座席に戻り、パソコンを起動する。見ているとそれぞれの生徒が、デスクトップの壁紙など、思い思いの作業環境を手早く設定していく。その様子からは「自分の学習机」という思いが感じられる、ここにも、型や枠にはめるのとは違う、日常の生徒指導のあり方が透けて見えるように思われた。

歌い終えた生徒たちは、先生の指示でおののおの座席に戻り、パソコンを起動する。見ているとそれぞれの生徒が、デスクトップの壁紙など、思い思いの作業環境を手早く設定していく。その様子からは「自分の学習机」という思いが感じられる、ここにも、型や枠にはめるのとは違う、日常の生徒指導のあり方が透けて見えるように思われた。

パソコンが起動すると、続いて坂本先生から指示が出された。

「では、先生が用意したアンケートのプログラムを開いてください。先生からの質問がありますから、それに回答してください」

ひととおり回答が終わつたところで、先生はこう切り出した。

「今の合唱にも、朝の合唱にも、納得できない人がいるね。言いたいことがある人も結構いるなあ。それじゃ、言いたいことがある人は、手を挙げて言つてみてください」

ひと言おり回答が終わったところで、先生はこう切り出した。

「今の合唱にも、朝の合唱にも、納得できない人がいるね。言いたいことがある人も結構いるなあ。それじゃ、言いたいことがある人は、手を挙げて言つてみてください」

静まりかえる教室。手は挙がらない。それを予期していたのか、坂本先生は次のステップへと進んでいく。

「誰かに言いたいこと」そんな坂本先生の問いの意味が明らかになったのは、クラスメイトの思いが記された文章がモニターに表示された瞬間だ。思うように進まない練習、ひとつになれないみんなの気持ちに対する切なる声が、生徒たちの胸を打つ。

口には出せない だけど……

「みんなのクラスメイトに、こうこうはどう日誌を書いてくれた人がいます」

そう言って先生が画面に投写したのは、クラスのある生徒が日誌に書き記した、合唱練習への思いだった。上田中では、すべての生徒が毎日のでき」とを日誌に記して提出する指導が行われている。

「ここにはこう書かれています。課題は分かっているのに、どう言つたらいいか、どう進めたいか分からない。話せば分つてくれる友だちはいるのに、自信を持つて話せない……さて、この人はどうして自分の思いを口に出せないんでしょう。皆さんにもそんな体験はありますか?」

坂本先生はそう問い合わせると、今度は『つたわるねっとTeen's』の掲示板を開くように指示。掲示本文には、先ほどの日誌の抜粋が表示され、生徒たちはそれに対する自分の考えをメッセージとして書き込んでいく。坂本先生はそう問い合わせると、今度は『つたわるねっとTeen's』の掲示板を開くように指示。掲示本文には、先ほどの日誌の抜粋が表示され、生徒たちはそれに対する自分の考えをメッセージとして書き込んでいく。

「口に出して言つたことに、どういう反応が来るか分からないから」「批判されることが怖いから」など、さまざま意見が寄せられていく。中には「なぜ言えないか」という問い合わせではなく、日誌文冒頭の「合唱って何だろう、賞つて何だろう」という問い合わせに対して、自分の思いを書き込む生徒も見られた。

文字と言葉を行き来して

先ほどは挙手こそ見られなかつたものの、生徒たちは決して「考えていない」「思っていない」「感じていない」のではないことが、メッセージの真剣さからひしひしと伝わってくる。

ここで、坂本先生は改めて挙手と発言を求めた。生徒たちは、先ほどとは明らかに違う表情を見せながら、それでもまだ挙手は見られない。

しかし先生は動しない。

「みんな分かってると思うけど、誰が掲示板に何を書いてるか、先生には見えてるからね」そう笑つて、指名して発言を求めていた。

練習に遅刻し、悪いと思ひながらそつ態度に示せなかつた生徒。指揮者になりたいという思いがかなわなかつた生徒。それぞれの思いが、少しずつ引き出されていく。

ここで先生は、先の日誌文の続きをあらわす中盤部分を提示。そこには書き手の「言えなかつた思い」がつづられていた。

「今日の音楽の授業で使われたプリントをあつめて、読んでみた。(中略) みんな私が思うより深く考えた。私は1人だけじやないとthought」

食い入るよう画面に見入る生徒たち。今、一人ひとりの胸にあつた思いが、ひとつずつ文章を触媒としてあらわになり、

触れ合おうとしている。

「ああ、それじゃあ今度は『つたわるねっとTeen's』のチャットルームを開いてください。3つのチャットルームが作っていますから、自分の好きなテーマの部屋で、自由に話しあつてみましょう。

参加は本名じゃなくハンドルネーム——自分の好きな名前でいいですよ」

先生が設けたチャットルームは次の3つ。

- みんなに聞きたいたい
- みんなに言いたい

最高の学級

一齊にキーボードに向かう生徒たち。

授業のクライマックスだ。

朝練習に遅れて済みませんでした

「今しかできないんだし、もう一生こんなことないと思う」

「自分が(指揮者に)選ばれなかつたのはなんでだと思う?」

——悔いが、決意が、悔しさが、どんどん流れ込んでくる3つの小部屋。

最初は1人のつぶやきだったものが、小さな波紋となり、文字と言葉と行き来する間に、次第に大きくなつていったこの時間。今、このチャットルームでいくつもの波が重なり合い、混じり合つて水面に描き出そうとしているかのように

本時・道徳「合唱コンクールについて意見を交わそう」

「みんなことを言いたい」という仲間がいるよ」と口に出て、「言つたことがある」とおぼしき生徒を指名。口に出ての発言がなかなか活発化しない状態を、生徒自身にも自覚させる。

@フレンドの掲示機能で引き出す。

2 テーマの把握

「みんなことを言いたい」という仲間がいるよ」と口に出て、「言つたことがある」とおぼしき生徒を指名。口に出ての発言がなかなか活発化しない状態を、生徒自身にも自覚させる。

3 対話の糸口

アンケート結果を基に生徒に挙手発言を認め、さらには「言つたことがある」とおぼしき生徒を指名。口に出ての発言がなかなか活発化しない状態を、生徒自身にも自覚させる。

4 対話の深化

「つたわるねっとTeen's@フレンド」のチャットルーム機能を使って、より生徒たちが本音を出しやすくなる環境を作る。テーマ別に3つのチャットルームを設定し、匿名で書き込みを行つなどの配慮をする。

5 まとめ・学習感想

チャットルームでの発言を受けて、生徒たちの思いをすくい上げる。さらに、テーマ素材とした日誌に記された思いに共感する声などを取り上げ、さらに一度発言を求め、次回へとつなぐ。



「思いを言葉にできないのはどうしてか」坂本先生の次なる問いに、今度は掲示板を使って生徒たちの思いが寄せられていく。「自分だったらどう思うだろう」と与えられたテーマが次第に「わが事」に変わっていく。

ここで先生は、生徒たちに挙手発言を求めたが、掲示板上ほどには発言が得られない状態。「手の挙げ方に生徒の気持ちが表れる」とは、関西学院大学の横山教授(P20参照)の言葉だが、まさにそれを地でいくさまで取れる。

ここで先生は、生徒たちに挙手発言を求めたが、掲示板上ほどには発言が得られない状態。「手の挙げ方に生徒の気持ちが表れる」とは、関西学院大学の横山教授(P20参照)の言葉だが、まさにそれを地でいくさまで取れる。

「これからは、腰をすえてじっくり練習し、ひときり盛り上がり始めたチャットルームの終了」を告げ、坂本先生は、これまで隠されていた日誌文のラストを写す。

「これからは、腰をすえてじっくり練習し、ひときり盛り上がり始めたチャットルームの終了」を告げ、坂本先生は、これまで隠されていた日誌文のラストを写す。

（中略）私は3～4の仲間を信じぬくことをちかいます！」

生徒たちは、じつと画面に入っている。

坂本先生は、授業の最後に言いたいことはないかと挙手を求めた——挙手なし。

「これが、このクラスの課題だよね」

先生はそう言つたが、その表情はやわらかな笑顔だった。

授業の冒頭、中ほど、そして最後。なかな

「何でも口に出して話せる」という学級授業の後、坂本先生にお話を伺つた。

しかし、この日の授業では、言葉によるコミュニケーションは、メールやネットでの文字情報に偏つた、ゆがんだものだというニュアンスで語られる。

しかし、この日の授業では、言葉によるコミュニケーションは、会話によるコミュニケーションは、言葉によるコミュニケーションではないかと挙手を求めた——挙手なし。

「これが、このクラスの課題だよね」

先生はそう言つたが、その表情はやわらかな笑顔だった。

授業の冒頭、中ほど、そして最後。なかな

この日の授業は、私たちにもいろいろなことを考させてくれた。

現代の若者のコミュニケーションについて語るとき、その多くは言葉による対話が失われ、メールやネットでの文字情報に偏つた、ゆがんだものだというニュアンスで語られる。

しかし、この日の授業では、言葉によるコミュニケーションと文字によるそれがないかと挙手を求めた——挙手なし。

「これが、このクラスの課題だよね」

坂本先生は、授業の最後に言いたいことはないかと挙手を求めた——挙手なし。

「これが、このクラスの課題だよね」

先生はそう言つたが、その表情はやわらかな笑顔だった。

授業の冒頭、中ほど、そして最後。なかな

「何でも口に出して話せる」という学級授業の後、坂本先生にお話を伺つた。

しかし、この日の授業では、言葉によるコミュニケーションは、会話によるコミュニケーションは、言葉によるコミュニケーションではないかと挙手を求めた——挙手なし。

「これが、このクラスの課題だよね」

先生はそう言つた